

10月1日 原 丈人 講演 概要

現在、世界では「会社は株主のもの」という米国流のコーポレート・ガバナンスが盲目的に信仰され、破綻したサブプライム・ローンそして排出量取引など、残念ながら「カネがカネを生む」新たな仕組みが着々と整備されつつある。

しかし間違っても日本はこの流れに追従するべきではない。金融立国で生きるのではなく、モノづくりを原点とした産業立国で生きるべきである。なぜなら、日本には中国やインドにも決して真似できないモノづくりに支えられた技術力が蓄積されている。これを土台に中長期の研究開発を行い、現在の基幹産業である IT にかわる新たな産業を生み出していく力が十分に備わっている。ロボットの世界でも日本が高い技術力を誇っており、今後工場での生産ラインだけでなく、災害現場、介護現場・・・引いては人間の日常生活の多くの場面で、活躍が期待される技術であり、その社会貢献度も大変期待できるものである。本当の意味で産業・社会・人間のためになる技術を育てる、中長期的な投資を行いたいと考えている経営者や投資家も必ず存在する。我々は、もう一度人々が幸せになるために生まれた資本主義の原点に立ち返り、会社とは何か、幸せとは何かを改めて問い直す必要がある。

以上